

静岡大学生涯学習教育研究センター

# 地域と大学

第11号

*Newsletter No. 11, Center for Education and Research of Lifelong Learning*

## シドニー大学における地域貢献と地域連携

静岡大学生涯学習教育研究センター助教授 阿部 耕也

平成14年度末、オーストラリアにおける大学の地域連携・貢献のあり方を視察する機会を得ました。今回はシドニー大学を訪問先に選び、継続教育センター、ビジネスリエゾンオフィスなど、地域貢献の窓口となっている部局を見学し担当者と意見交換を行うことができたので、その概要を報告します。

イラク戦争が勃発し豪州も参戦という折り、中井弘和副学長、村越順一地域連携推進室長と3月24日から1週間の豪州視察に向かいました。シドニー国際空港の警備は物々しく戦時であることを伺わせましたが、市内に入るとニュース以外で戦時を感じさせられることはありませんでした。幸い旅行中は晴天に恵まれ、快適な南半球の初秋を満喫することができました。

ニューサウスウェールズ州の州都であるシドニーは、豪州最大かつ最も長い歴史を誇る美しい都市



写真1 シドニー大学構内

で、世界三大美港の一つに数えられるシドニー湾を中心に広がっており、面積は東京都の5倍強、人口は約380万人を数えます。市中心部近くに立地するシドニー大学は、1850年に設立されたオーストラリア最古の大学で、18の学部からなる最大の大学でもあります。学生数は4万人を超え、5千人を超える外国人留学生も学んでいます。

事前にシドニー大学出身の情報学部ゲスト教授にコンタクトをとってもらい、3月26日の視察初日にはシドニー大学から以下のような日程をアレンジしていただきました。

午前10時にキャンパス中心にある印象的なゴシック建築“Quadrangle”（写真1）下でドッド国際部長と待ち合わせ、棟内にある副学長室にエスコートしてもらい副学長補佐シェリントン教授から公式の歓迎を受けました。教授からは現在進行中のシドニー大学戦略プラン1999-2004について説明を受け、地域貢献・地域連携に関して意見交換を行うことができました。

続いて、継続教育センターにセンター長ハイマニス女史を訪ね、生涯学習に関するシドニー大学の貢献について伺いました（写真2）。シドニー大学では、教養コース／キャリアアップコース合わせて250を超える継続教育コースが走り、毎年22,000人ほどが受講するといえます。大学全体として地域住民への教育サービスに取り組む姿勢があり、地域のニーズも高いと感じました。継続教





写真2 継続教育センターにて

育センターはその企画・運営のほかニーズ調査や地域連携プログラムを担当しており、フルタイムのスタッフ16人、事務職員20人が業務に当たっています。さらにパートタイムの教育スタッフが450人以上いるということです。ハイマニス女史らは、継続教育コースが多く受講者を集める理由として、豪州最大かつ最も歴史があるシドニー大学への評価・期待をあげられましたが、同時に単位や資格の授与システムの検討をなかなか進めない大学の保守性に危機感を持っておられました。

初日最後の訪問先はアジア太平洋研究所 (RIAP) で、同地域にある諸機関と共同研究を進めたり、研究に訪れる外国人に英語教育サービスを提供したり、多彩な活動を展開していました。当初予定していたコースは以上でしたが、副学長補佐との懇談で、地域産業との共同研究、知的所有権の扱い、地域と連携した教育活動にも関心があることを伝えると、早速翌日の視察・意見交換の場を設定していただきました。

2日目は教育学部・職業経験部門の責任者ジャスマン助教授を訪ね、企業・学校との連携の上で進められる学生の教育課程や現職教員の再教育プログラムの説明を受けました。

続いてビジネスリエゾンオフィスを訪ね、事業推進マネージャーのサイムズ氏に産業との連携について説明を受けました。本学の地域共同研究センターに対応するこのオフィスは22人の専任スタッフと6人の事務職員を擁し、大学と企業との共同研究の仲立ちを行い、大学の持つ知的資源をビジ

ネス化することを業務としていますが、学内に特許申請の仕方や知的所有権の守り方、研究にともなうリスクマネジメントについて指導助言する仕事も担当しています。パテント・知的所有権について質問したところ、シドニー大学では共同研究の成果である特許などは大学に帰属するものの、そこから上がる収益については関係者が等分するというルールを最近導入したといます。メルボルン大学などでは特許自体の帰属を研究者に認める方向で動いており、人材や企業がそちらに流れないかと危機感を募らせていました。

どの担当者も思ったよりフランクにシドニー大学の強みと課題を語ってくれ、こちらも独立行政法人化など大きな変化のただ中であることを伝えましたが、こうした中で改めてこれからの大学にとって地域貢献・連携が重要だという実感をえました。

懇談の後も広大なキャンパスを散策し、南半球最大という附属のフィッシャー図書館および宿泊地に近いシドニー工科大学附属図書館も利用してみましたが、いずれも非常にオープンな対応で、大学開放が当然のこととして根付いていることを感じました。シドニー大学では本学情報学部との学生交換プログラムの検討が進んでいますし、また先にふれたRIAPも日本の財務省と共同研究を進めるなど日本との関係も少なからずあります。また今回の視察旅行では時差がほとんどなく快適でしたが、時差がないということは、例えば日本との遠隔教育プログラムやテレビ会議システムによる共同研究などを進める場合にも重要な要素となってくると感じました。

今回は準備期間のないまま出発した豪州訪問でしたが、地域貢献・連携に関して多くの示唆を得ることができました。急な訪問にもかかわらず歓迎いただいたシェリントン副学長補佐をはじめシドニー大学の皆様、訪問日程のコーディネートをいただいた本学情報学部のゲスト教授、更にこの機会を与えていただいた学長および本学関係の皆様、紙面をお借りし御礼申し上げる次第です。



## 平成15年度静岡大学の全学公開講座決まる

平成15年度静岡大学全学公開講座

地区	沼津会場	静岡・清水会場	静岡大学(静岡)会場	静岡大学(浜松)会場
講座名称	駿河の文学と歴史	東海道の文化史	やきものの基礎を学ぶ	健康と軽スポーツ 生活習慣病予防のために
共催等	沼津市教育委員会(共催)	静岡市教育委員会(共催予定)		浜松市教育委員会(後援)
会場	沼津市民文化センター	清水・中央公民館	静岡大学静岡キャンパス	静岡大学浜松キャンパス
受講対象	市民一般(高校生以上)	市民一般(高校生以上)	市民一般(高校生以上)	市民一般(高校生以上)
募集人員	50人	50人	20人	40人
開設期日	8/30・9/6・13・20・27土5日	8/30・9/6・13・20・27土5日	11/8土・9・16・23・30日曜5日	9/20・27・10/4・11・18・25土6日
時間数	1日2時間 計10時間	1日2時間 計10時間	1日2時間 計10時間	1日2時間 計12時間
開設時間	14:00~16:00	14:00~16:00	13:30~15:30	14:00~16:00
講習料	6,200円	6,200円	6,200円+材料費1,000円	7,200円
受付期間	8/4(月)~8/15(金)	8/4(月)~8/15(金)	10/14(火)~10/24(金)	8/25(月)9/5(金)
受付場所	沼津市教育委員会生涯教育課	清水・中央公民館	静岡大学研究協力課(静岡)	静岡大学研究協力課(浜松)
講座内容	近年静岡県下でも地域文化が見直されつつあります。県東部には文学・歴史から社会の進展を知ろうとする動きも強いものがあります。そこで駿河東部の地理、文学、歴史の歩んだ道を探ってみます。 講師：教育・塩川、池田、人文・関根、滝沢、湯之上先生	東海道は、日本の基幹街道として文化伝播に大きな役割を果たしてきました。中でも静岡県は東海道の中心として独自の文化を育んできました。静岡、清水の合併に合わせ東海道から見たこの地の文化にスポットを当てます。 講師：人文・篠原、湯之上、小二田、上利、教育・大宮先生	静岡県には古代から近世の古窯跡が各地に発見されています。これらをもとに郷土の陶磁文化財に目を向け、やきものの歴史を学び、初歩的な実技を体験してみます。そこからやきものの基礎と静岡やその周辺のやきものに理解を深めます。 講師：生涯学習センター柴垣、教育学部美術科 土田教務員	現代人は運動不足といわれます。機械文明は日常生活から運動をなくし、生活習慣病は健康な身体をどんどん蝕んでいます。生活習慣病を予防するため、無理のない運動を心がけるよう、講義と実技を実施します。 講師：保健センター山本、教育・中野、横山、河合、杉山、稲村先生

## 平成14年度後期生涯学習教育研究センター事業の実施

### 「しずだい・飛ぶ教室」、伊豆へ飛ぶ

大学の知的資源を県下の各地へ提供する「しずだい・飛ぶ教室」は昨年度から実施している出前講演会ですが、今年度は賀茂村中央公民館での賀茂地区家庭教育研修会と南伊豆地区史跡めぐりへ講師派遣を行いました。

①日時：平成14年8月27日(木) 10:00~12:00

場所：賀茂郡賀茂村中央公民館

(写真は郷式徹助教授の講演)

テーマと講師：「他人の気持ちがわかる子に育つ」  
教育学部 郷式 徹 助教授

②日時：平成14年9月27日(月) 9:00~16:00

場所：南伊豆町中央公民館出発／

南伊豆町、下田市

「南伊豆の史跡めぐり」原秀三郎 本学名誉教授

### ふじのくにユースカレッジの研修講座終わる

静岡県教育委員会青少年課と共催のふじのくにユースカレッジ(青少年活動リーダー養成講座)II期生の研修講座は、14年6月22日(土)から15年2月15日(土)まで6回実施してきましたが、応募者22名がさまざまな講義と実習を体験して順調に終了しました。

6/22(土)「生涯学習と地域づくり」

内田忠平常葉大教授

7/6(土)「棚田再生と地域づくり」

中井弘和副学長

8/24(土)「NPOボランティアと地域づくり」

小桜義明人文学部教授



「しずだい・飛ぶ教室」賀茂地区家庭教育研修



ユースカレッジ生、「清沢塾」の棚田で実習

9/28(土)「宮崎地域活性化塾」宮崎大原義彦助教授・宮崎県教育委員会坂上大司氏SCSシステム利用

11/23(土)「いのちを守る、支えあう」石川憲彦保



健康管理センター所長、「防災ネットワークの活動」災害ボランティア県協議会笠原英男会長・午後清沢塾棚田収穫見学  
2/15(土)「青少年の現状と課題」角替弘志常葉大副学長、「事業プログラムの立案」松永由弥子静岡産業大助教授

### 生涯学習指導者研修事業の実施

県公民館連絡協議会と共催の公民館主事等の研修事業は、清水市辻・江尻公民館で約65名の公民館関係者に、本学教育学部生涯学習課程の専攻学生20余名の参加を得て実施しました。基調講演と文部科学省から優良公民館の表彰を受けた2公民館の報告に続き教育学部石井山助教授の指導下で学生の公民館実習の研究報告、最近の公民館活動が2事例発表され、公民館の方々の具体的な検証と研修視点の指摘や討論が活発に行われました。

日時：平成14年12月4日(水) 10:00～16:00

場所：清水市宮代町 辻・江尻公民館

(写真は辻・江尻公民館での研修風景)

テーマ：公民館の活性化と学校との連携

基調講演：「公民館活動の活性化と学校」

教育学部唐木清志助教授

報告：「わいわい子育てプラン」

富士市吉永公民館大石弘治館長

「先生は中学生」

清水市興津公民館古沢繁男館長

講義と報告：「地域に自治を築く」

教育学部石井山竜平助教授、学生の研修事例4例

事例発表：清水市庵原公民館鈴木修館長、同飯田公民館藤牧愛子館長

パネルディスカッション：各発表者、石井山講師、柴雅房県教育委員会社会教育課社会教育主事



辻・江尻公民館での研修風景

### 公開シンポジウム「アジアの進路が地球の運命を決める」終了

アジア学研究プロジェクトチームと当センターの共催による「アジアの進路が地球の運命を決めるーアジア学の構築めざして」と題し、下記の日程で公開シンポジウムを開催しました。当日は約120名の参加があり活発な論議が交わされました。

日時：平成14年12月22日(日) 13:30～17:30

場所：グランシップ910会議室

- ・学長あいさつ：アジアの中の日本の役割  
佐藤博明
- ・なぜいまアジアか？ー生態系と農の視点から  
中井弘和(副学長)
- ・稲作文化と自然観ーDNA考古学から見たアジア  
佐藤洋一郎(農学部助教授)
- ・アジアの貧困と経済発展の意味を問う  
山本義彦(人文学部長)

- ・いま必要とされるアジアの知  
上利博規(人文学部教授)
- ・討論司会：松田 純(人文学部教授)
- ・総合司会：大江泰一郎(附属図書館長)

### 学習ネットワークと生涯学習⑤の開催

今年度の生涯学習ネットワーク研究シンポジウムは、市町村と大学における試みをテーマに以下の内容で実施しました。SCSシステムに4大学の参加があり、好評裏に終わりました。

日時：平成15年1月21日(火) 14:30～17:00

研究報告：「提供システムから交流システムへ」

静岡県立大鈴木直義教授

「掛川・とは何か学舎とは何か？」

掛川市教育委員会宮崎裕和氏

「大学公開講座を起点に学習ネットワークの構築」

徳島大学大学開放実践センター

猿田真嗣助教授

パネルディスカッション：司会・菅野文彦教育学部助教授

### 「きて見て静大・やきもの考古学」の実施とエルネットオープンカレッジへの参加

今年度の「きて見て静大・やきもの考古学③」は1/26、2/1、2/2、2/9、2/16の5回で、例年どおりセンター柴垣勇夫教授、陶芸作家前田正剛氏、教育学部土田美智子氏、愛知芸大太田典典助教授の実技を交えた講義で20名の受講者で実施しました。なお、前半2回をエルネットオープンカレッジ「やきもの考古学」として2/8、2/22の15:00～16:50の時間帯で、通信衛星を使い全国へ放送されました。2/22は香川県教育委員会とライブで結んで「陶器の復元」作業の体験が放送されました。

### キャンパスツアー二日間に100名余参加

平成14年11月16日(土)、18日(日)にはキャンパスツアーを広報委員会と共同で実施いたしましたが、昨年に比べ、3倍以上の参加があり、高校生のみならず一般市民の方が大学を訪れました。各学部の研究室開放が少しずつ多くなってまいりました。

生涯学習教育研究センターでは、学内の公開講座情報、大学開放事業などを掲載し広報します。最近の計画、将来計画をセンターまでお寄せ下さい。  
ホームページ <http://www.shizuoka.ac.jp/~cer11/>

## 地域と大学 第11号

静岡大学生涯学習教育研究センター情報誌

平成15年3月31日発行

〒422-8529 静岡市大谷836(理学部B棟1階)

静岡大学生涯学習教育研究センター

TEL 054-237-1111(代)

TEL/FAX

054-238-4817(資料室・受付)

事務局 静岡大学研究協力課共同施設係 TEL054-238-4264